

脳神経外科

研修実施責任者

東京労災病院脳神経外科部長 氏家 弘

研修指導医

東京労災病院脳血管内外科部長 門山 茂
東京労災病院脳神経外科医師 中川 将徳

1 一般目標

脳神経外科領域の疾患におけるEBMに基づいた診断・治療についての見識を深め、脳神経外科医として必要な基礎的診断能力と治療技術の習得を目指す。

当科は脳神経外科学会訓練施設A項に認定されており、スタッフとして残り脳神経外科専門医の資格（卒後6年をへて研修期間の長が推薦）を取得することも可能である。

2 行動目標

(ア) 病棟医として

1. 神経学的検査法と神経学的診断法に熟達する
2. EBMに基づいた最適な治療法の選択に熟達する
3. 手術の助手あるいは術者として脳神経外科手術の基礎を学ぶ

(1) 第1年時

ア	脳神経外科救急外来での診断と処置
イ	頭部外傷（外傷性頭蓋内出血を含む）に対する術者
ウ	頭蓋穿頭術（慢性硬膜下血腫、定位的血腫吸引術）、頭蓋形成術、シャント手術、開頭血腫除去術などの術者
エ	血管内手術を含むその他脳外科手術の助手

(2) 第2年時

各人の手術手技の上達度を見て適宜判断する。

可能と判断された場合にはマイクロ手術の術者となりうる。

4. 術前後の管理を通じて、神経病態に対する最善の対応法を学ぶ

5. 術後患者の病態を迅速かつ的確に判断し、最善の管理を行う
6. 患者や家族へのインフォームドコンセントを学ぶ

(イ) 救急医として

脳神経外科救急外来の第1コールとなり救急患者の診療に当たる。

(ウ) 外来担当医として

原則2年時までは一般外来診療は行わない

3 生涯自己学習を目指して、各種勉強会や学術活動に積極的に参加する

1. 回診時のディスカッション
2. 症例検討会での症例紹介とディスカッション
3. 抄読会での発表とディスカッション
4. 剖検への立会い
5. CPC、神経病理検討会への参加
6. 各種カンファレンスへの参加
7. 各種学会への参加と発表
8. 研究論文の発表